## D−8 就労形態の相異による母親の教育期待の比較研究（第2報）

福山市立女子短期大学　　津川　淳

目的．変動社会の中で生活の基本単位の家族で母親の就労形態の違いが、母親の子供への教育期待にどの様な変化を及ぼしているかを明らかにしていく。

方法．第1報に同じ．

結果．分析は母親の就労状況によって定職に就いている者を「共働き」、内職、アルバイト、パートの者を「内職」、無職の者を「主婦」として分類した。生活基盤の特徴は学歴では主婦が夫婦共に高く、次に共働き、内職の順である。収入は共働き、主婦内職の順で、夫の職業は主婦にホワイトカラー、共働きに自営、内職にブルーカラーが多い。家族員数は共働きが最も多く、次に主婦である。社会意識の生き甲斐には差はなく、生活向上の期待は内職に他者への依存が強い。児童観で主婦は個性を重視し、共働きは外的規準を重視している。意図的教育としての躾で、厳しさの程度には差はないが、一致度は主婦が最も多く、主婦に内的な躾がみられるが、共働きには不一致、しかも、躾をする人の未定が多く、外的な躾をしている。教育期待では内職、共働きに教育機関への要求が強く、依存的態度がある。塾に対しては、内職、共働きに不就塾者が多く、主婦にはピアノ、オルガンが多い。量的な教育的配慮は内職に多く、次に主婦である。無意図的教育としての子供への接触は主婦に多く、共働きには少ない。進学期待には差はない。就園理由は共働きに家庭の都合によるものが多く、主婦は教育機関での教育効果を重視していて、幼児教育は幼稚園だけに志向している。全体的に主婦にみられる教育期待は子供の内的力動性を重視している。